

## 中古の工作機械を「フリマアプリ」で売買 茅野市のフォーチュンが共同開発 直接取引でコスト削減目指す

2024/04/16 10:40 有料会員記事

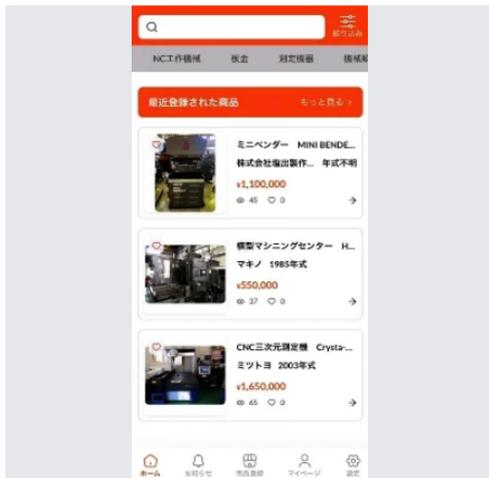
f シェア

X ポスト

B! ブックマーク

記事をクリッピング

紙面ビューアーで見る



中古機械を売買するマシプラの画面

システム開発のフォーチュン（茅野市）は、中古工作機械や工具を売り買いするフリーマーケットアプリを、FA（ファクトリーオートメーション）装置開発の原精工（神奈川県愛川町）などと共同開発した。中古機械を直接売買するプラットフォーム（基盤）として展開する。機能を追加しながら2029年までに登録者10万人を目指す。

アプリ名は「マシプラ」。メーカーや製造年、販売価格といったカテゴリーから希望する機械を検索できる。出品者の元を訪れたりアプリのオンライン会議機能を用いたりして、機械の状態を確認するなどして、購入を決定する。保有する中古機械を売りに出すこともできる。販売代金のうち約15%を手数料として運営側が得る。

原精工の原国昭社長が5年ほど前にアプリを構想。21年からフォーチュンなどとの開発に着手した。

原社長によると、中古機械の売買は販売業者を仲介する機会が多い。機械を販売業者に運ぶ輸送費がかかる他、買い手が見つかるまでの管理費など



などが売値に転嫁されることもある。原社長は「機械を何度も動かす作業やコストを削減したかった。（機械に関する）知識があれば、直接売買は安く買える仕組みだ」と強調する。

工作機械メーカーでつくる日本工作機械工業会（東京）によると、08年のリーマン・ショック後には、一時的に中古工作機械の売買が活発化したことがあった。担当者は「顧客は機械の加工精度やスピードの他、景気の先行きなどを見て購入する機械を決めている。新品ほどの性能でなくても中古機械の需要もあるのではないかと推測する。

マシプラは今年1月にサービスを開始し、現在の登録者数は30人余。海外版の提供やオークション機能などの追加を計画している。原社長は「売り手にも買い手にもメリットのある市場をつくりたい」と説明。フォーチュンの藤井紀光社長は「ソフトウェア開発は完成がない世界。必要なサービスを追加し続けていく」としている。